第四回定時総会ひら○

新世代PCa工業会　江花氏（横浜労災病院）が講演

新世代PCa工業会（会長＝篠田佳男氏）は、十月二十九日午後二時から東京・京島の墨田区曳舟文化センターで第四回定時総会を開催した。当日は総会に先立って篠田会長が「我々建設産業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いている。特に最近の倒産件数を見ると六月以降、増加傾向が続いており、全倒産件数の約三分の一を不動産や建設関連業者が占めている。私はここ数年毎年のように厳しい、厳しいという事を申し上げておりますが、建設関連業界は今、正に大倒産時代の真っ只中にいる。しかし考えて見ると、この厳しい状況が何時までも続くとは思っていない。私の勝手な予想ですが、来年度を踏ん張る事ができれば、そのまま勝組に残れると期待している。そういった意味でも来年度が大きな分岐点だと思う。

契約入札制度については、総合評価方式が完全に定着して、技術という事が問われるようになっている。しかし実際にどの程度、技術の差が開いているのか考えると、まだ曖昧な点が多々あるが、確実に技術という事が重要視される時代にきている。コンクリート構造物は、新設については長寿命構造物、そして既設構造物については、延命化が大きな課題であり、高い技術力が要求される。当然、新設構造物の長寿命化となれば、プレキャスト化という事が問われる。建設現場を見ると、五十歳以上の作業者が全体の半分を占めている。今後の事を考えると若い作業員が建設現場の第一線で活躍するという事はあまり期待できないと思う。そうなると簡易施工が可能なプレキャスト製品への期待が高まる。

私は工業会設立時からプレキャスト製品の比率を二～三％上げるという事をスローガンとしてきた。しかし景気後退によりコスト問題が重要視されて思うように製品化率を上げる事が出来なかった。そうした中、工業会の活動の成果として昨年度、軽量化を図った都市型側溝『ぴったん溝』を商品化した。ぴったん溝は、敷地境界ギリギリまで設置できる都市型側溝で、路面に出る集水口が小さい事から意匠性に優れた製品となっている。

一方、ND―WALL工法の展開については昨年、長野県と福島県で現場打ち工法により採用された。引続き今年度も三件の物件が動いているが、近い将来何とかND―WALL工法のプレキャスト化が出来るように取組んでいきたい。またワーキンググループ（WG）の活動についても一層の活発化を図って工業会活動を大いに活性化させていきたいと考えている」と開会の挨拶を述べた。

続いて総会議案の審議に移り、平成十九年度事業報告及び収支決算報告、会計監査報告、平成二十年度事業計画案及び収支予算案を審議した結果、提出された原案を全て承認した。

一旦休憩の後、講演会に移り横浜労災病院・心療内科部長の江花昭一氏（医学博士）が「職場のストレスとメンタルヘルス」と題して講演した。講演の中で江花氏は「心の病と言われている、うつ病の患者数は今や人口の五％以上（約六百万人）に達しており、労働者年代の二％を占めている。何故、この様に増えたのか、うつ病という病気自体は何も新しい病気ではなく、昔から知られていた。では何故、六百万人もの患者がいるのか考えてみると、少なからず核家族化がその原因ではないかと思われる。昭和二十年代、三十年代の家族と言えばお祖父ちゃん、お婆ちゃんをはじめ、両親に兄弟と多くの○が一緒に暮らしていた。また外に出ればガキ大将を中心に学年を越えて近所の子供達が一緒になって遊び回っていた。そうした生活の中には一定のルールが存在して、子供達はそうした生活の中で社会のルールを学び、我慢を覚え、人との接し方を身に付けた。しかし現代は核家族社会が進み一人っ子が多く、子供達は家にこもってテレビゲームで遊び、勉強は塾や学校で一方的に押し込まれる。

その結果、社会のルールや我慢も学ばないで社会に出てしまう。こうして育った子供達は、苦難に対して非常に弱く、自分の力で壁を乗り越えようとしない。その結果、ストレスを溜め込んでうつ病に掛かり、最悪の結果、自殺をしてしまう。

今、日本の交通事故死者数は六千人を割り減少傾向にある。しかし自殺者数は、ここ十年を見ると三万人を越えている。この数字を見るだけでも社会が病んでいる事がよく判る。こうした問題を防ぐためには、相手の変化を逸早く見つけて、何かいつもと違うと思ったら話を聞いて様子を見る。こうする事でストレスを溜め込んでいる人を孤立させない事が大事です」と述べて講演会を終了、最後に会場を移して懇親会を開いて夕刻散会した。

前年同月比五七・一％の増加

八月度のブロック造

国土交通省がまとめた平成二十年八月度の建築着工統計によると、コンクリートブロック造の着工総床面積は五千五百七平方メートルで前月比二八・七％の減少、前年同月比五七・一％の増加となった。

なお八月度のブロック造工事費予定額は七億八千七百二十六万円であった。

各都道府県別の着工総床面積は次の通り。（単位は平方メートル）

▽北海道七四▽青森――▽岩手――▽宮城――▽秋田――▽山形一一▽福島――▽茨城八七▽栃木九六▽群馬一七▽埼玉三六〇▽千葉六二▽東京二六九▽神奈川一三二▽新潟四七▽富山四〇▽石川三一▽福井二〇▽山梨四四▽長野一二四▽岐阜二二六▽静岡一五一▽愛知四五▽三重――▽滋賀三〇▽京都――▽大阪八〇▽兵庫二六二▽奈良――▽和歌山六九▽鳥取二二八▽島根――▽岡山――▽広島六三▽山口六一▽徳島――▽香川二八▽愛媛――▽高知――▽福岡六〇八▽佐賀――▽長崎――▽熊本――▽大分――▽宮崎――▽鹿児島一〇四▽沖縄二、一三八。